
大神と7匹の子ヤギ

ぬじゃわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大神と7匹の子ヤギ

【Nコード】

N7762N

【作者名】

ぬじゃわきし

【あらすじ】

子ヤギに元にやってきたのは、狼じゃなくて大神だった！！！！！！！！！
???

むかしむかし、あるところに、やぎの家族がいました。おとうさんやぎと、おかあさんやぎと、７匹の子やぎです。おとうさんやぎは、常に働きにいつてましたが、エンゲル係数がたかいたために、食費がまにあわず、おかあさんやぎも、週に一度働きに出かけていました。

ある日、おかあさんやぎは、出かける前に子やぎたちに言いました。「これからね、おかあさんは出かけるけど、おおかみがくるかもしれないから気をつけてね。」

「おおかみ？」

「そう。とってもとっても怖いから。だれかが訪問してきてもドアをあけちゃだめよ。おおかみかもしれないから。」

「わかったー。」

そういつておかあさんやぎは家をでました。

７匹のこやぎたちは話し合いました。

「おおかみ？」

「そうだよおおかみ。」

「おおかみってどんなの？」

「そりゃ、狼つていえば、茶色くて、毛がもさもさで、よだれが出て、牙があつて、僕らを食べちゃう奴でしょ？」

「きやつこわい！」

「じゃあ、手が茶色かったらおおかみってことだね。」

「そうだよ。それに気をつければいいのさ。」

その時、ピーンポーンとドアホンが鳴った。

「ん？だれだろう。」

「おおかみよ！きつとおおかみ。」

「まあまあ、のぞいてみようよ。」

長男やぎはドアに開いた穴から訪問者を覗こうとしました。だが、いません。だがそのとき三女やぎが悲鳴をあげました。

「見て！みんな見て！」

三女やぎが窓を指差してたので、みんなが見ると、なんと窓の向こうの平原に巨大な白い足が見えました。見上げると白い神と髭の長い巨人が立っていました。それはまるで神様のようです。

長男やぎは悲鳴をあげました。

「あつひゃー、オオカミとおもったら、大神が来た！」

巨人はいいました。

「私は大きな神、略して大神だ！貴様ら愚民に裁きを下す！」

そういつて巨人はいきなり手に雷を持って地上に突き落とそうとしたので、長男やぎが家から出て叫びました。

「待たれい！大神よ！」

巨人は雷を落とすのを待って、長男やぎを見下ろしました。長男やぎは言いました。

「何故、我ら愚民に裁きを下すのか？裁きを下されるべき根拠を我らにご教示して下さい。」

大神は答えた。

「理由などここにあらず。真理は愚民には理解できぬ。」

「そんなものでは納得できぬ。」

「我に反抗するとは、こうしてやる！」

大神が手を挙げると、長男やぎはあつというまに空に吹き飛ばされました。大神は言いました。

「さあ！次は誰だ！」

「ワタシよ！」

長女やぎが現れて言いました。

「大神さん！あなたを決して許さないわ！」

「なんだと？」

大神は手を上げ、長女ヤギを空に吹き飛ばしました。
「ちくしょー大神め！」

そういつて、次男三男次女ヤギが現れて言いました。

「おねーちゃんとおにーちゃんを返せ！」

「うるさい！」

三匹は空に吹き飛ばされました。

三女ヤギが現れました。三女ヤギは言いました。

「争いは良くない事よ！大神さん。おねがいだからやめて！」

「……」

「どうしてそんなことをするの？心がさみしいの？」

「……」

「なにか悲しい事があつたら私が相談にのるわ。」

「うるさいうるさい黙れー！ー！」

大神はそう叫んで、三女ヤギを空に吹き飛ばしました。

さて残るは末っ子のヤギです。末ヤギはこうなつたら立ち向かわないほうがいいな、と思い、時計の後ろに隠れました。だが大神は叫びます。

「そこにあと一人いるのだろう！渴っ！」

大きな風が吹き、ヤギの家が次々と吹き飛ばされました。このままでは末ヤギの姿もあらわになつてしまいます。思わずさげびました。
「おかー！ーちゃー！ーん」

そのときです。おかあさんヤギがあらわれました。おかあさんヤギは大神にいました。

「うちの子になんてことするの！」

そしていいました。

「渴！」

その渴の勢いに押された大神はあつというまに三回宙返りして倒れ

てしまいました。いつのまにか他の6ひきのやぎも空から降り立ってきてとりあえず平和になりました。とき。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7762n/>

大神と7匹の子ヤギ

2010年10月10日12時06分発行